

医師の育成・定着のための取組について

佐賀県健康福祉部
令和2年1月22日

佐賀県に根ざす良き医療人の育成を推進

良き医療人を育成
病める人の悩みや苦しみを
共感できる心を育む。



【県追記】

- ・ 県と佐大の協定による寄附講座（当初4年、2年延長。）
平成22年度 149,997千円 平成23年度 203,561千円
平成24年度 226,517千円 平成25年度 241,925千円
平成26年度 100,000千円 平成27年度 100,000千円
※ 協定書における寄附額
- ・ 原資は、地域医療再生基金（全額国庫）
- ・ 平成28年度以降、残余資金にて運営（令和元年度期首・残額117,413千円）



佐賀県全域で働きたい
という「志」を！

- ・県民に貢献したいという動機付けを！
- ✓ 困難な診療領域でも活躍
- ✓ 医師が少ない地域でも活躍

- ◆ プライマリ・ケアの能力獲得
- ◆ 県民の健康・医療ニーズの把握
- ◆ 県内の医療提供体制の理解
- ◆ 必要な医学知識の獲得



地域での就業が義務付けられた、
自治・地域枠・修学資金貸与医師を中心に



佐賀で活躍する医師に！



- ◆ 内科・小児科・外科・産婦人科、脳神経外科、
麻酔科、救急科、総合内科医・家庭医療専門
医等の育成
- ◆ 医療機関の勤務環境の改善（女性医師支援含
む）



魅力的かつ具体的な
人材育成プログラムを！

- ・卒前・卒後一環した育成・定着を支援！
- ✓ 優秀な医師の育成と定着
- ✓ 中堅層の学び直しやUJターンにも対応
- ✓ 海外留学等の技能向上の機会を支援

課題

- 高齢人口の増加に伴う医療需要が増加する一方、若年層の医師が減少しており、医師の育成と定着促進が必要
- 医療法の改正に伴い県の機能が強化されたが、医療政策は極めて専門的分野であり、行政のみでは対応が困難
- 県内で医師を養成する佐賀大学医学部の重要度が増しているが、地域医療政策や医療人材の育成に特化した部門がなく、佐賀大学オール医学部としての魅力的な教育システムの構築が課題

このような課題に対処するために

医師の育成・支援体制のあり方

- 佐賀県全域で働きたいという医師を育成するため、佐賀大学オール医学部で医師を育てる体制を構築